

アグリマイスター 二年連続学校賞受賞

アグリマイスター懸賞制度とは、農業に関する知識・技術・技能を学ぶ高校生が自信と誇りを持って産業界で活躍できるように励ますことを目的として、全国農業高等学校長協会によって作られた制度です。

孝良

2019年(平成31年) 3月6日(水曜日)

全国高校アグリマイスター顕彰

2年連続の学校表彰

遠野市松崎町の遠野緑峰高(菊池勇校長、生徒146人)は、全国農業高等学校長協会(東京都)が農業学習の成果を総合評価する2018年度後期のアグリマイスター顕彰制度で、2年連続の学校表彰に輝いた。表彰は全国129校のうち、わずか15校のみ。教員と生徒がビジョンを共有し、継続して研究を積み重ねる同校の学びが着実に形となっている。

遠野緑峰高

顕彰制度は15年度に創設。在学中に取得した資格や合格した検定試験、コンクールの成績などを得点に換算し、合計得点でプラチナ、ゴールド、シルバーの3段階で評価する。学校表彰は農業系学科生

農業研究 継続が実る



アグリマイスター・ゴールドの称号を得た(左から) 佐々木未悠さん、千葉麻実加さん、山蔭仁哉さん

徒の1割以上がマイスター認定されることが条件。同校は生産技術科(農業クラ

ブ)1~3年の生徒94人のうち、前年度比7人増の3年生21人がマイスター(ゴールド)3人、シルバー18人の称号を得た。

同科の3年生は本年度、草花研究班がホップ和紙プロジェクトで高強度の和紙

制作工程を確立。日本学校農業クラブ全国大会(農業甲子園)で優秀賞を獲得するなど数々の優秀な成績を残したほか、それぞれが新食品開発や繁殖・肥育などで研究を深化させた。

「ゴールドに輝いた同班の山蔭仁哉さんは「研究に没頭した3年間。目の前のことに集中し、やり遂げたことが自信になっている」と胸を張る。佐々木未悠さんは「地域の人たちと協力し、地域資源の可能性を広げられた」と感慨深げだ。

食農研究班でホップ素材の食品開発に取り組み、製造業に就職する千葉麻実加さんは「素材を最大限に生かす大切さを学んだ。将来の仕事にも生かしたい」と前を見据える。

寺長根一真学科長(45)は「先輩の残したものを深めていく良いサイクルができつつある。地域の支えにも感謝し、継続は力となることを学校全体で共有していく」と張り切る。